

# 図書館を めぐる勉強会

in 牧之原

## 報告集

第1回 「絵本の中の図書館・本・ことば」 ..... 講師:草谷桂子

第2回 「市民の役に立つ図書館」 ..... 講師:吉住幸子

第3回 「市民とともに成長する図書館をめざして」

進行:東 宏乃 コメント:草谷桂子&吉住幸子

まきのはらし図書館友の会・発行

静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター・牧之原みらい交流サテライト:協力

2016年8月発行

## 「絵本の中の図書館・本・ことば」

講師：草谷桂子（トモエ文庫主宰、児童文学者）



第一回目の草谷先生の講話は、前半は、「なぜ、図書館に33年もの間、関わってきたのか、その魅力について」と、「図書館の社会的役割について」でした。

図書館は、

- \*中立で公正に歴史を保存している
- \*あらゆるものを提供し、「判断するのはあなたですよ」という懐の深いところがすばらしい
- \*情報と資料で、あらゆる活動を支援してくれる
- \*利用者だけでなく、全ての人に間接的に恩恵を与えてくれる
- \*「知る権利」「学ぶ権利」「読む権利」を保障する社会システム

それによって、

- ◎世界や未来に窓が開かれる
- ◎生きるヒントが見つかる
- ◎町おこしの拠点になる
- ◎心のオアシス、情報ステーションとなる
- ◎「？」を「！」してくれる
- ◎人々をハッピーにしてくれる

というお話をしました。

後半は、何冊もお持ちになった絵本の中から、「図書館・本・ことば」について、楽しみながら考えて行きました。図書館があることの幸せや尊さを感じる本ばかりでした。

その中から三冊とりあげます。

- ◆「はちうえはぼくにまかせて」（ペンギン社）  
小さな子どもが生活の中で自然に図書館を活用している様子
- ◆「ぼくのブックウーマン」（さ・え・ら書房）  
馬に乗って、遠隔地に本を届ける図書館職員がある少年と出会い、その少年が届けられた「本」によって心が安定し、人を思いやり、前向きになってゆく様子が描かれている。

### ◆「にんじんばたけのパピプペボ」（偕成社）

にんじんをたくさん作り、売ったり人助けをしたりした後、粘土でレンガを焼き、保育園、図書館、劇場を作ったお話。大事なものって何？と考えさせてくれるお話。

講話が終わった後、参加者から思わず「全部読みたい」という声があがりました。

それから、先生の家庭文庫「トモエ文庫」に集まる子どもたちのスライド写真も見せていただきました。みんな生き生きと自然の中で遊び、本と親しんでいました。先生が、子どもたちに対する大人の姿勢として、ムリムリ本を押しつけないこと。子どもが楽しいと思える場所に「本」があるという「環境」をつくってあげたい。とおっしゃっていたのが、心に残りました。



草谷先生のお話を聞きに多くの方が集った



絵本を紹介される草谷先生

## 意見交換で出された意見

(参加者1) どうやって本の世界を広げてゆけば良いか……?

(草谷先生)若い人が、図書館を盛り上げて行ってください。

(参加者2) 子どもがどうしても大きな声を出してしまう時があり、親は肩身が狭く、図書館から足が遠のいてしまう。そのような場合、どうしたらよいのでしょうか?

(草谷先生) 限定した時間で大きな声を出しても良いとする図書館があるので、いろんな工夫

をしていきたいですね。

(参加者3) 電子書籍が良いと、今まで思っていたが、今日お話を聞いて考えが変ってきた。

(参加者4) 10年前の電子書籍は、機械のモデルエンジなどでもう使えない。長い目で見ると本(紙)の方が経済的で、扱いやすい。

(草谷先生・参加者5) これからの図書館では、司書さんは、本の知識があるだけでなく、人が好きでなければならないと思われます。

## ★1回目の感想

59人ご参加の中から、11人の感想を主催者が選びました。全部の感想については、P.12以降をご参照ください。

### ◆ホン(蔵書・情報)

- ①本からも体験からも学ぶ。
- ②図書館は本が好きな人が行くのではなく、気がついたら手に取っていた。そして好きになっていた。そんな図書館がいい。
- ③温かい心を育てることと、知識を得ることは、同じ図書館でも、必要な機能が違うと感じました。
- ④まずは図書館という建物(箱でよい)のある風景をこのまちに作りたい。そこで穏やかで懐の深い司書さんがいて、子ども達と顔なじみになってくれたらしめたもの。次に本の世界へいざなってくれる(思考を促す)静かな空間、静かな時間を大人が意図的に子どものために作ってやりたい。
- ⑤情報を得るだけでなく、情報(文化・芸術)発信の場としての図書館がほしい。

### ◆ヒト(職員・利用者)

- ⑥人と人がつながる図書館。人が集まって来て、それぞれの人が何かヒントをもらって帰れる場所。
- ⑦小さな図書館でも司書さんと距離の近いものがよいです。

### ◆ハコ(施設や環境)

- ⑧図書館の近くに外で読める椅子や芝生の広場があるとよい。
- ⑨アスパルや吉田と同じ図書館を作る必要はない。いろいろなスーパーにそれぞれ客が来るよう何か来たくなるような売り(個性)がある図書館がほしい。
- ⑩各家庭で所有し、貸し出してもいい本をホームページ上に登録し、それを一覧にし、本を借りたい人が閲覧できるサービスをつくる。
- ⑪品格なくして地域なし!図書館なくして牧之原市なし!



「翼と根っこをくれるのは図書館」という言葉が印象に残った。本を読むことで人格を形成し、1人の人間として社会に立ち、未来への夢や希望を持って生きて行くのは素晴らしいことだ。100年後・300年後を見つめて、未来を地元牧之原の充実した図書館から託していきたい。

まきのはらし図書館友の会 杉本公恵

## 「市民の役に立つ図書館」

講師：吉住幸子（牧之原市教育委員、常葉大学非常勤講師）



第2回目は、吉住幸子先生の「市民の役に立つ図書館」でした。浜岡町立図書館（現・御前崎市立図書館）建設立ち上げに携わり、開館後も図書館運営業務をされてきた立場から、牧之原市の図書館をどのように市民の役に立つものにしてゆくかという内容でした。

浜岡町の基本構想に図書館建設が織り込まれたのが1980年でした。図書館のオープンは1993年7月になります。立案から実現までに13年間かかった長期構想です。

浜岡町立図書館建設設計画で特筆するべきは、1989年に建設推進委員会から出された図書館建設に対する答申書の内容です。その要約は次の通りです。

- 貸し出しを運営の基本におき、町民に親しまれ、居心地の良い図書館を目指すこと
- 建物と蔵書の整備だけではなく、どのように運営していくかが最も重要
- そのための利用者の要望に対し的確な対応の出来るセンスを持つ人材の確保
- 十分な予算措置を継続的にとること

箱物を用意して終わりではなく、その後のことを考えていることがわかります。特に人材確保までを答申としている自治体を吉住先生も当時他には知らず、「なんて素晴らしい基本理念だろう！」と感激したそうです。開館した後に目指す図書館の姿を自治体の理念として決定し、実行していくことがひとつ的重要であることが窺えます。

まちづくりにも図書館との関係性があるようです。浜岡町立図書館の開館当時、開発途上だった周辺に、現在では複数の商業店舗があり、市の中心商業地域になっています。図書館の集客能力も関係があると推察できるそうです。図書館が市民の学びの場というだけでなく、市政やビジネス効果に大きく関わりがある施設であることがわかる一例です。

行政から求められる成績は、数字の結果のことでした。御前崎では年間貸出数から個人が書籍

購入したと仮定する金額を費用対効果の指標とし、ピーク時の試算は約8億円だったそうです。

また、他県のユニークな取り組みの図書館も紹介されました。岩手県の紫波町では、「オガールプラザ」という複合施設に図書館があり、同じ施設内に民間テナントや産直品販売の「紫波マルシェ」が入っているそうです。マルシェの商品に図書館がPOPでおすすめレシピ本を紹介するなど、PR協力をしているところに他にない特色を感じたとのことでした。他にも宮城県東松島市の図書館を紹介していただきました。



図書館希望の樹の葉を支える幹に意見がたくさん貼られた



吉住先生の講話の後、学力と図書館について活発な意見交換が行われた

## 意見交換

意見交換では、図書館サービス、御前崎市立図書館の現在の利用状況、利益効果率において学校教育との関係についてなどの質問が参加者からありました。御前崎では、いつもまずどんなサービスが提供できるのかを考えてきたとのことでした。増加した滞在型利用者が食事できる場所づくり、将来に渡ってお客様となる子どもへの配慮を学校との連携を含め大切にしてきたこと、展示スペースの確保など。周辺自治体に次々図書館が開設されるなどの要因から、御前崎市立図書館の利

用はピークアウトしていて、利益効果率の面では苦心しているとのことでした。教育や図書館は効果が目に見える数字などでは表しにくいものなので、学習能力との関係性は10年、20年…といった長期スパンで評価すべきものなのだということでした。

### ★2回目の感想 55人ご参加の中から、11人の感想を主催者が選びました。全部の感想については、P.14以降をご参照ください。

- ①知識だけじゃなくて知恵も見つけられる場所=図書館。
- ②新しい出会いと新しい知識が深まる“場”でありますよう。心の糧になるような。
- ③図書館は本を借りるという認識しかなかったので、図書館の役割の多さにビックリしました。
- ④「将来のお客さんである子ども達」の興味を育てる図書館という言葉が心に残りました。
- ⑤吉住先生のこんな図書館→「産直コーナーがある」は、とてもいいアイディアだと思いました。まず、人が集まる。知恵・暮らしが集まる。楽しさ・夢が集まる。
- ⑥複合施設的図書館ならば図書館に行く、行きますくなります。(カフェコーナーほしい!)
- ⑦保健師さん、保育士さんを取り込む図書館。

- ⑧設置基準や収集基準等、普段きけない話がよかったです。図書館はこうやってできているんですね。
- ⑨図書館の集客力が経済の活性につながる可能性を知っておどろきました。
- ⑩図書館の費用対効果、数字だけでなく、他の目に見えない効果が絶大！！皆感謝しています。図書館に！
- ⑪市民参加型の計画性をもっと詳しく知りたいです。



「図書館がほしい！」という思いの人が多いのだなあと思う。図書館をめぐる勉強会に自発的に集まつた人たちが、熱心に講師の先生の話を聴いている。朗読会をしている方、お話しの方、音楽に親しむ方、いろいろな趣味をお持ちの方等々。その方が、市にとって貴重な知的財産だと思う。そう思ったら、講師の二人の先生も牧之原の方、素晴らしい！

まきのはらし図書館友の会 大石昌利

## 共育ワークショップ 「市民とともに成長する図書館をめざして」

進行：東 宏乃（静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター  
牧之原みらい交流サテライト・地域連携コーディネーター）

コメント：草谷桂子（トモエ文庫主宰、児童文学者）  
吉住幸子（牧之原市教育委員、常葉大学非常勤講師）



共育ワークショップ（実施時間105分）の参加者は54人。本の読み聞かせなどの活動や、古本市を開催してその売り上げで新本を買って図書館に寄贈する活動など、長年、図書館を愛し、（学校図書も含めて）本のある日常を支える活動に携わってきた市民らが多く集まりました。そして、参加者の2割程は、勉強会のチラシをみたり、静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター牧之原みらい交流サテライトの活動に参加したりする中で、この勉強会に関心をもって新しく参加してきた市民でした。西原市長や坪池教育長、市議会議員様、市役所社会教育課の方をはじめとする市の職員も参加してくださいました。

今回の共育ワークショップでは、市が進めている公共施設マネジメントの計画案に掲げる理念を尊重し、図書館単独で、施設の新設などに係る議論はしないこととしました。

しかし、牧之原市にはどんな図書館がふさわしいのかということと、図書館構想に向けて、図書館の機能と図書館活動の中身づくりを、今から心づもりしておきたいという、主催者の意向から、「市民とともに成長していく、自分達の図書館

にしていくには？（私たちはどんなことをしていったらいいでしょう？）」というゴール（目標）に向かって、共育ワークショップを行うことになりました。

### ■共育ワークショップ「市民とともに成長する図書館にしていくには？」のプログラム

(1) 起：参加者が場に慣れつつ、1回目2回目の勉強会の感想を踏まえ、ワークはスタート。特に、平成21年3月に提案された「市民を元気にする図書館 7つの提言」(P.11の「前文」参照)以後、どのように牧之原市の図書館が、(スペースは同じでも)中身の点で進化してきたのかについて資料(P.8の下段に再録)でたどりました。例えば、専門職の司書が配属されたり、学校図書館との連携が進んだり、市民の活動が県で表彰されたりと、7つの提言の効果が実際にみてとれました。小さい歩みでも進んでいたのです。それを参加者皆で共有しました。そして、実際の活動、「あなたにとって図書館とはどんなイメージですか？

今日は色で表してみましょう。」と、100色の折り紙から好きな色を1人1色を選んで、同じ系統の色どうし3人～4人のグループになりました。



図書館のイメージを、折り紙の色で示して開始



なごやかで活発な意見交換がなされた

面白いのは、希望や未来をイメージしたオレンジ系と、自然や癒しを表す緑系が多かったです。さらに意外だったのは、白やオフホワイトを選んだ5人があり、図書館の静けさや本の紙の色をイメージしたグループとなり、そのメンバーは図書館のコンセプトについて心の底から意気投合したことでした。

(2) 承：同系色のグループ内で、市民とともに成長していく図書館について意見交換をしました。とてもぎやかで、笑顔がいっぱい。活発な議論が進みました。

(3) 転：「承」の議論を受けて、「こんな活動をしてみたい！」という提案のある人が「この指と

まれ」方式で名乗りをあげ、話し合うグループの再編を行い、話し合いを深めました。

(4) 結：「転」で話し合った提案を、何を・いつ・誰が・どこで行うのかと整理しながら、あたかも1つの活動のようにまとめて14のアイデアを発表しました。発表するときは、壁に「図書館希望の樹のカレンダー」と名打って今からできることから、3ヵ月後～2年先、今からずーっと継続して取り組む事まで、実現すべき時期ごとに整理して貼りました。最後は、西原市長にカレンダーを寄贈し、「すばらしい。でも、図書館をあまり好きではない人も今後は巻き込んで行ってほしい。」というようなお言葉をいただいて、終わりました。

## 14のアイデア

共育ワークショップで溢れ出てきた市民とともに成長する図書館の具体的アイデア

### 今日から

- ①どの年代も楽しめる図書館－和室でくつろぐ
- ②お茶を飲みながらリラックスして好きな本を共有しながら話題に花が咲く
- ③図書館を中心とした複合施設で図書館に関心のある人とない人が一緒に結ぶ  
研修会・勉強会・図書館の掲示・イベントお知らせなど

### 3ヶ月後

- ④「ぐりとぐら」の世界にひたって お菓子パーティー  
空間を絵本の中のようにして、音楽を聴きながら楽しく食べる
- ⑤おいしいお茶を飲みながら新聞を読む（屋外ではテントを使って）  
ひまわり号（巡回図書室）とコラボして、長居できるスペースで
- ⑥○○○企画展。市民サポーターと連携しながら、毎月行う（幅広い選書）  
文化財と歴史書、趣味の本、農産物と栽培の本、料理。遊び場、お母さん用の本

### 1年後

- ⑦静かなオシャレな空間で、一人ひとりが、静かに孤独に（読書を）楽しむ
- ⑧本をベースにした企画  
あらゆる市民が、展示・講話・ワークショップ・朗読・本のコーナーなど
- ⑨本について語る会（読書会）

テーマ、作家を決め、聴きたい人やしゃべりたい人が、誰でも、図書館で

### 2年後

- ⑩長居のできる居心地の良い空間を移動図書館とコラボする  
職員とボランティアが協働して、屋外でもよいテント使用

### 近い未来

- ⑪自分が貸せる本を図書館に登録できるシステムをつくり、本を活用  
(珍しい本を借りることができる。それが図書館の個性・魅力になる)

### 今からずーっと

- ⑫いろいろな人が集う図書館づくり  
子どもから高齢者まで、全ての人に図書館に来てもらうための企画
- ⑬自分の思いのあるテーマをもって交流できる場  
本との出会いを、年齢を問わず学校図書館とも連携しながら家族・友達・先生と
- ⑭図書館応援隊  
様々な意見・アイデア・希望を吸い上げまとめ、行政との橋渡し窓口に  
それぞれのグループの代表が来てください、要望をまとめます



## ★3回目ワークショップの感想

参加者54人の中から、4つの感想を主催者が抜粋しました。

希望と夢を感じました。

すばらしい活動の「樹」を育て、みんなで「森」にしていって欲しいと思います。  
私も一人の力になればと思います。

Y・K

“こんな図書館”へのイメージが話し合う毎に明確になっていきました。  
それと、同時に、牧之原を思う気持ちが深くなってきたことを実感しました。

N・H

未来を感じるワークショップに楽しく参加させてもらって、嬉しかったです。

参加されたみなさんから、牧之原市全部に図書館づくりの輪が広がる事をこころから願っています。市民がつくる図書館。ぜひ、実現させましょう。

K・M

勉強会で今回出された多用なアイデアをまとめておいてください。

これが、理想的図書館活動になると思います。  
(図書館を)嫌いな人も含めて、今の市民の願いをまとめられたらいいですね。

O・M

折り紙の色で示す図書館に対するイメージ・想いは、人それぞれ違っていて、共感できたり、自分と違う考えを知ったり、勉強になった。グループは少人数で、ゆったり話が聴けた。発表で1つに絞るのが困難なほど、アイデアはたくさん出てきた。「この指止まれ」活動で提示し、話し合い、「図書館の希望の樹」カレンダーが完成した。今後もアイデアを検討していくために、活動を継続し、交流の場を持ちたいと思う。多数の参加があり、ワークショップの会場は、素敵な花と絵本に囲まれ、穏やかな雰囲気だった。

まきのはらし図書館友の会 沢田初未

### 参考資料

#### 「市民を元氣にする図書館 7つの提言」(H.21年3月)以後の図書館の進化

- H.21 図書館従事職員 1人から 2人へ 棟原図書館で昼時間の開館を開始する  
相良図書館、棟原図書館、ともに、水曜日夜間開館（～19:00）を開始  
図書館が、子育て課のブックスタート事業に参加し、親子での図書館利用が増加
- H.22 おはなし会の活動が活性化
- H.24 雑誌スポンサー制度を導入
- H.25 学校図書館司書支援員の配置（4名が市内の小中学校 13校と）連携  
棟原図書館リニューアルオープン
- H.26 「グー・チョキ・パー」が子どもをはぐくむ地域活動団体として県で表彰される  
「ぬいぐるみ おとまり会」大好評（預けたぬいぐるみのイメージで本を貸す）
- H.27 嘴託職員も土日祝日勤務を実施（棟原図書館）  
学校図書館司書との連携強化  
「おはなしクラブ」が優良読書グループとして県で表彰される
- H.28 家庭教育学級の講師依頼を多数いただく
- H.22～28 嘴託職員が子ども読書アドバイザーの資格取得。各種研修へ参加

（牧之原市役所社会教育課より頂いた資料から主催者が抜粋）

## 牧之原市に住んでよかったという図書館を！

3回の「図書館をめぐる勉強会」は、驚きの連続でした。驚きの一つは、ずっと前から、多くの人たちが牧之原市の図書館について汗を流し、知恵を絞ってきてくださっていたということ。二つ目は、講話やそのあとの議論の深さとそれを生み出す会の運営の巧みさ、そして三つ目は、「市民とともに成長する図書館」というコンセプトの温かさでした。実に多くことを学ばせていただきました。それだけに、図書館への熱い思いや今までの歩みが日の目を見るようにしなければならないと強く思いました。

第1回勉強会での草谷先生の「図書館はまちおこしの拠点」、「自治体の文化レベルのバロメーターが図書館」というお言葉、第2回、吉住先生の「市

民の役に立つ図書館」、「あくまでもお客様にとつて便利かを考える」というお言葉は大変印象深く、忘れ得ぬ言葉として脳裏に刻み込まれています。

私自身は、現在、月1回、中学校の朝読書に参加させていただき、有志による朗読劇にも年1回のペースで参加させていただいている。本を仲立ちにした活動は実に魅力的です。本により成長し、本により人と人が結ばれていきます。

3回の勉強会に参加し、図書館は、牧之原市に生まれ、牧之原市に住んでいてよかったと心の底から思わせてくれる最高の文化施設であるという思いを一層強くいたしました。

早川 和幸

(青少年赤十字賛助奉仕団・中部地区長)

## 14のアイデアの1つを実現します！

「できるだけ大きなカステラを焼いて、食べたいね。フライパンはどうする？」  
「うちは卵やさんだから、卵を持っていくね。」「会場は、ぐりとぐらの世界にして、ねずみになったり、歌ったり踊ったりしたいね。」

人気絵本「ぐりとぐら」シリーズが大好きな私たちは、「ぐりとぐら」に出てくるお菓子を作って食べたり、歌ったり……と、夢は広がっています。こんなかわいい楽しい図書館が近くにあったらいいな。と思い、作ってしまおう！ ということになりました。11月23日、静波（多目的スペース「凛・百花春」）に、1日だけオープンします。

3回目の「図書館をめぐる勉強会」の中で、蔵書の貸し借りの登録システムを作ろうというアイデ

アもありました。私の家の本棚には、英語の絵本もたくさんあります。先日、小学校英語活動指導員さんと、高校の英語教諭が私の家に集まりました。イベント用に、英語の絵本を貸して欲しい。とのことでした。3人で読んでいたある本の最後のページの1行が、とても深い意味があり素敵ね、となりました。「I can be anything！」（私は、何にでもなれる）something（何かになれる）ではないんだよね。と。自宅の本を、自分以外の方にも読んでもらえたらうれしいです。いろいろなイベントで、家の絵本が活躍できることを願っています。

中川 松枝

(多目的スペース「凛・百花春」)

上記は、全3回の勉強会に参加された2人の市民の方に、全体の感想をお寄せいただいたものです。

早川さんは、相良中学校で読み聞かせをなさっている元教員。中川さんは、図書館をめぐる活動に今回から参加された方です。どちらも、力強く楽しい援軍ですね。ありがとうございます。



「借りる喜び」相良図書館



「図書館見学」棟原図書館

# ごあいさつ

この度は、図書館の勉強会（全3回）へご参加くださいまして、ありがとうございました。

3人の講師の方のご助力を受け、第1回目は59人、第2回目は55人、第3回目は54人もの、幅広い市民・市職員・市議会議員様などのご参加をいただきました。

「よりよい図書館にしてゆき、図書館とともに成長していきたい」という皆様の想いを強く感じ、まきのはらし図書館友の会は、皆様と共に、応援隊として、第3回目の勉強会（共育ワークショップ）で出された、「14のアイデア」(P.7)の実現にむけた活動支援を行います。そして、今まで以上に熱く、広く、強く、有効な活動を続けたいと思っています。

まず、 \*市職員さんと、図書館の現状と課題を話し合う。

\*近隣の図書館と、図書館条例を比べてみる。

\*図書館の機能を充実させた上での、図書館を中心とした複合施設としての可能性をさぐる。

といったことを、進めたいと思います。

さて、次ページの「市民を元気にする図書館 7つの提言」の前文をご覧ください。

20年以上前から、図書館充実にむけた活動が多くの市民によって受け継がれ、平成21年3月26日にこのような提言がなされました。

現在も市民の活動は脈々と繋がり、まきのはらし図書館友の会もその理念を引き継いで活動を続けております。

私たちが、図書館とともに成長し、「創造力の涵養に基づいた精神面での充実」を、貧富の差、年齢、障害のあるなし、国籍のちがいなどに関係なく、すべての人が平等に得ることができれば、自ずと子どもたちも、それに続いて、人生を豊かに生きてゆくすべを身につけていくこと信じています。

今後とも、ご協力くださいますよう御願い申し上げます。

平成28年8月8日

まきのはらし図書館友の会  
代表 水嶋 みゆき

## 「まきのはらし図書館友の会」の歩み

- |       |  |
|-------|--|
| ★★★★★ | H23年 3月 有志が集い準備会を開く<br>5月 「まきのはらし図書館ビタミン会」として正式に発足<br>11月 第1回リサイクル本 販売会  |
| ★★★★★ | H24年 2月 勉強会「図書館を応援するってどんなこと?—図書館友の会について」<br>11月 第2回リサイクル本 販売会  |
| ★★★★★ | H25年 2月 勉強会「図書館を応援するってどんなこと? Part2—図書館協議会について」<br>11月 第3回リサイクル本 販売会  |
| ★★★★★ | H26年 2月 勉強会「図書館を応援するってどんなこと? Part3—よりよい図書館にするアイデア」<br>11月 第4回リサイクル本 販売会  |
| ★★★★★ | H27年 3月 (プレ)「ビブリオバトル」開催<br>7月 第1回「ビブリオバトル」開催<br>11月 第5回リサイクル本 販売会  |
| ★★★★★ | H28年 2月 勉強会「図書館を応援するってどんなこと? Part4—図書館は市民を元気にするの?」<br>3月 「ゆうゆうらんど さくらまつり」参加 古本市を出店<br>5月 団体名を「まきのはらし図書館友の会」と改名<br>7月 図書館をめぐる勉強会 in 牧之原(全3回) 開催 |
| ★★★★★ | 〈予定〉 11月 第6回リサイクル本 販売会<br>○月 勉強会「図書館を応援するってどんなこと? Part5」   |

## 「市民を元氣にする図書館 7つの提言」

### 前文

牧之原市発足の理想・市民の期待は、「幸福実現都市」実現に向けての夢を一歩ずつ追い続けることである。その根幹を為すものは、市の箱物的施設や、単なる金銭的・物質的豊かさではなく、市民が人間として、創造力の涵養に基づいた、精神面での充実であります。

精神面での充実が個々人の人生を豊かにし、市民の生活満足度向上に、如いては市民力の向上に結びつくと思考されます。

当市の現状を鑑みて、図書館に期待されるところ（図書館のあり方）は、上述の「創造力の涵養に基づいた、精神面での充実」そのための支援が大切であると考える次第です。

又、他市町の図書館の状態等も勘案して、牧之原市の図書館機能を貸し本業務の充実のみではなく、独自性や特色をもった

1. 市民サポート機能の付与充実（情報収集提供・知的 requirement 対応）
2. 子ども読書活動推進支援（学校図書館との連携・将来の人材育成）
3. 市内各地域の利便性向上（情報の均衡化・巡回 / サテライト図書館）

などを主眼に、あり方を検討しました。以下の提言が実現でき得るよう協働推進を期することです。

### 付加説明

私たちは胎児として母親のお腹にいる時から、幼児、学童期、学生時代はもちろん、社会人となり、又、年をとつてからも人生のあらゆるステージにおいて、体験や読書を通じて知識を得、情報を手にして知恵やアイデアを創造し、判断力を養い、感性を高め感情豊かな心をそだてます。体験は各々の環境により限られたものですが、本・読書によるものは、世界中の先人の叡智を学ぶことができます。

子ども時代から本に親しむ環境作りは個人の生涯にわたっての宝となるでしょうし、次世代の優れた人材育成、如いては市民を元気にさせる大きな要素となります。学校だけにそれを要求するのではなく、家庭も地域も行政もその環境作りに力をそそげたらすばらしい未来が展望できます。

子育ての本を図書館で手にした母親どうしが悩みを打ち明けあったり、介護看病でままたらない人が図書館に来るひと時を楽しみに日々を過ごす事もあるでしょう。仕事に忙しく暮らしているときは読まなくても、病気や怪我で動けなくなってしまった機会に読書をし、新しい世界に出会えたことがきっかけで、自分とは違う考え方を知ることもあるかもしれません。

老若男女、健常者、障害のある方、勤労者、余暇を楽しむ方、日本人、外国人、一生を成長し続ける全ての牧之原市民に力を与え、元気な市民、元気な牧之原市を図書館とその活動を通じて創りたい。これが私たちの求める図書館です。

（平成 21 年 3 月 26 日）

# 図書館をめぐる勉強会 第1回目の感想や意見

## ホン（蔵書・情報）

- ・本からも体験からも学ぶ。
- ・図書館は本が好きな人が行くのでなく、気がついたら手に取っていた。そして好きになっていた。そんな図書館がいい。
- ・温かい心を育てることと、知識を得ることは、同じ図書館でも、必要な機能が違うと感じました。
- ・まずは図書館という建物（箱でよい）のある風景をこの町に作りたい。そこで穏やかでふところの深い司書さんがいて、子ども達と顔なじみになってくれたらしめたもの。次に本の世界へいざなってくれる（思考を促す）静かな空間、静かな時間を大人が意図的に子どものために作ってやりたい。
- ・情報を得るだけでなく、情報（文化・芸術）発信の場としての図書館がほしい。
- ・先生のお話を聞きし、これから紹介して頂いた本を沢山読んでいきたいと思いました。
- ・草谷先生オススメコーナーがあれば借りたい。
- ・広い図書館も欲しいが、街の中のいろんなところ（店や公園などいろんなところ）に本があつて借りられる。
- ・絵本の奥深さを改めて感じました。
- ・デイサービスという世界につとめ、利用者とのこれから的人生の先に小さな灯をともすには、どんな本、さがすの手伝って！図書館係りの方。
- ・各家庭で所有し、貸出してもいい本を、ホームページ上に登録し、それを一覧にし、本を借りたい人が閲覧できるサービスを作る。
- ・今の世で大事な「知」が足りないのは図書館がないからなんだネ。
- ・私が読む本と図書館にある本との関係…図書館というものをふくらませる先生のお話、カルチャーショックだなあ。
- ・私は本は大好きですが、いつも自分で買って読んでいます。本日のお話をきいて50才にもなった子どもの本はとってあるので、これから読みたい。私にとっては本屋さんへいくような気持ちで行ける図書館。本屋さんは「いらっしゃい」とやさしい声をかけてくれます。主人公は子どもと本。
- ・いろいろな児童書を知っているのに驚き。その本の中で描かれている図書館像が良かったです。

- ・子ども達の未来、色々な人生があるというモデルとして、本に出会えることも素晴らしい体験。
- ・理科に力を入れている牧之原市らしい科学の本の充実した図書館ができたらしいです。
- ・だれでも、どこに住んでいても本が届けられる、本が身近に感じられる、そんな発信が出来る図書館。
- ・絵本がいっぱいある図書館。
- ・子どもが寝そべって絵本が読める、学生が調べ学習・宿題ができる、それぞれの目的を叶えてあげられる。
- ・絵本の奥深さ、図書館の大切さを改めて感じました！

## ヒト（職員・利用者）

- ・貴重な絵本の数々のお話を聞かせていただき、司書さんの大切さを改めて知りました。
- ・「本と人」、「人と人」がつながる出会いを豊かにする所に！！子ども時代に出会った、大好きな本が、その人の一生を支えるそうです。
- ・本と人・人と人を繋げるオアシス。
- ・図書館は、人と人の出会うところですね。良い本との出会いも人の出会いも素敵な“場”から生まれていくと思います。みんなのキラキラした想いがいっぱいいつまつた“場”でありますようーに。
- ・図書館は情報提供する専門的面と、人との出会い、人を繋ぐ場所にしたい。
- ・相良図書館スタッフの熱意・頑張りに敬意を表します。これからも宜しくお願ひします。
- ・貴重な絵本の数々のお話を聞かせていただき、司書さんの大切さをあらためて知りました。
- ・箱より人材育成に（司書）の待遇改善に力を入れて欲しい。
- ・小さな図書館でも司書さんと距離の近いものがよいです。
- ・牧之原市らしい老若男女に優しい図書館が欲しいです。パソコンで調べられない年代には司書さんと話が出来るなど。
- ・図書館は人と人、本と人をつなぐところ、人があつまれる（つどえる）ところでありたい。
- ・学校の図書室の充実は、司書がいるということ、司書・教師の力が大きい。本に対して子どもた

ちが親しめるには、図書館（室）が解放されること。箱物をつくらなくても…保育園、空いた建物（学校）等活用されることが必要。そのために予算をつける、児童文学・絵本作家などを講師に講話など毎年行う等（教育予算化）。

- ・図書館は「人」を、その人が必要とするものをつけた場所だと感じました。
- ・子ども達が集える図書館。
- ・図書館を生かした“子ども教育”的イメージが豊かになりました。
- ・みんなが集うことができるしきけを作ってくれる人がいる図書館。
- ・人と人がつながる図書館、人が集まってきて、それぞれの人が何かヒントをもらって帰れる場所。
- ・子どもは宝、子育てと親育ての助けとなる場になってしまい。

#### ハコ（施設や環境）

- ・図書館の近くに外で読めるいすや芝生の広場があるとよい。
- ・アスパルや吉田と同じ図書館を作る必要はない。いろいろなスーパーにそれぞれ客が来るよう何が来たくなるような売り（個性）がある図書館がほしい。
- ・地頭方地区の子どもも歩いていける図書館（分館等）もほしい！（児童館も遠いから子どもが本をすぐ読めない）
- ・品格なくして地域なし！図書館なくして牧之原市なし！
- ・牧之原市に子どもから大人が楽しめる大きな図書館がほしい。読み聞かせバーなど。
- ・行った人が心がほっこりする図書館ができたら強く！！思いました。先生のお話すばらしかったです。
- ・子ども達がたくさん来てくれる図書館になってくれるといいです。
- ・牧之原に感性・知性あふれる環境を！！
- ・本があるだけでなく、空間として心地よい場所を作つていけたらいいと思います。
- ・様々な立場の人の意見を出し合つて、牧之原市ならではの図書館にしたいと思います。都会の図書館とはちがつてもよいと思います。
- ・今牧之原市にある図書館が使いやすくて好きです。あのような規模のものがもう少しあるといいです。地域の人がすぐに借りにいけるような図書館、子どもの身近にある図書館。
- ・これ以上の箱物はいらない。資料館の雨もりをなおし、図書館にリノベーション、いかがです

か？

- ・図書館の役割について改めて知りました。安心できる、やさしくなる図書館をめざしてほしい。
  - ・本日の先生のおはなしに感動しました。ぜひとも心のオアシスとなる相良図書館を皆の力で作れれば良いと思います。子どもの健やかな成長のためにも。
  - ・赤ちゃん・ママが利用しやすい図書館。
  - ・身近に本がいつもある、疑問を解決できる環境をつくることが大事。図書館は文化度の高い居場所ではないでしょうか。
  - ・子どもがほっとできる場所となる図書館に。
  - ・利用したくなるような楽しい図書館を一刻も早くお願ひします。
  - ・ちょっと立ち寄れる…そんな図書館がいいナと…。でも相良も榛原も図書館は高い所にあるんですね。フラットに入れる場所…。
  - ・早く図書館を作らないと！時間が無いと思いました。牧之原らしい図書館を作りましょう。
  - ・気軽に利用できる空間、行き易い距離に、充実した内容の図書館が生まれますように。
  - ・学校図書館の公開↔市図書館。両方を！！
  - ・地域に開かれ未来に開かれた図書館にしていて下さい。
  - ・牧之原ならではの、人と人が行きかう、交流のある図書館。
  - ・静かな大きな図書館より色々な声が聞ける図書館がいいね！
  - ・受講者からの意見から出た様に、本の種類・数も必要ですが、やはり心・温かさを感じられる図書館であつてほしいと思います。
  - ・公共施設（空校舎等）の効果的な活用をしてはいかがでしょうか。
  - ・今日のお話で“図書館”がとても変わりました。ありがとうございました。たくさんの本の紹介も色々なことを教えてもらえるもので、手に取つて読んでいきたいと思いました。
  - ・図書館すてき！！
- 〈感想〉 大変奥深く、興味深い内容でした。ありがとうございました。



# 図書館をめぐる勉強会 第2回目の感想や意見

## 利用しています、図書館

- ・みんなの本や図書館に寄せる熱い思いに感激しました。
- ・子どもが自立してもその地方の図書館で勉強させてもらっています！
- ・夏休み、子どもたちは勉強する為よく通っています。静かな空間をありがとうございます。
- ・長男が図書室で本を借りてきて、「面白いからお母さんも読んでみて。」といいます。幸せです。
- ・子どもが小さい時は親子で絵本を借りました。数年前資格を取る為、何回も勉強するのに通わせてもらいました！！（御前崎図書館）
- ・とにかく図書館にきてみて下さい。

## 図書館の内容充実

- ・目指せ！！蔵書12万冊。
- ・物語だけでなく、科学、生物、物理の好きな子が楽しめる。
- ・「説明資料」の充実が必要では。
- ・がんばってくれている牧之原の司書さん！待遇をよくして。
- ・やっぱりお金は必要だ。
- ・資料費をもっと！！

## 図書館と運営

- ・廃校などの建物を利用して、フロアごとにコーナー作りしてある図書館はいろいろな人が利用できると思う。
- ・産直1F。たくさんの人が集まるでしょうね。
- ・吉住先生のこんな図書館→「産直コーナーがある」は、とてもいいアイディアだと思いました。まず、人が集まる、知恵・暮らしが集まる、楽しさ・夢が集まる。
- ・市民の窓口がある。
- ・つながる図書館—子育て支援—仕事—趣味—市民のいこい—困り事—学校—生活。
- ・保健師さん、保育士さんを取り込む図書館
- ・1F子ども、2F中高生、3F大人、交差する空間。
- ・自分自身も図書館の仕事をしてきて、やっぱり古いタイプだと痛感させられたのは、紫波、東松島の図書館です。まだまだ敷居が高いと思えるのが図書館です。いろいろな掲示物などを利用者やボランティアでどんどん展示できたらすきだなと思いました。

- ・気がるに寄ることのできるしあげ・アイデアが必要。
- ・総合病院等連携することが大切。
- ・図書館機能をどのように強化するか！
- ・市民の教養が高くなれば自然と図書館は栄える。その逆もしかり！
- ・本好きを作るために、ゲーム・スマホ・テレビを取り上げよう！
- ・市民（子ども含む）の問題意識を醸成するか。
- ・図書館の集客力が経済の活性につながる可能性を知っておどろきました。

## 図書館の成り立ち

- ・浜岡の図書館の成り立ち等独特な話が聞けて良かった。
- ・市民参加型の計画性をもっと詳しく知りたいです。
- ・図書館は本を借りるだけでなく人と人とのつながりを作る所でもあると思います。
- ・図書の貸出のみでなく他機関との連携、自転車置き場の整理等々まで、細かな配慮してくれている事に感激！！行政の全ての業務にもつながる貴重なお話でした。
- ・設置基準や収集基準等普段聞けない話がよかったです。図書館はこうやって出来ているのですね。

## 図書館と費用対効果

- ・図書館の活用と教育におけるお話をありました。学力観についての意見もありました。ただテストや数値で学力=図書館利用や、費用で考えることはあまり賛成できないです。
- ・図書館のよさを「見える化」は大変ですね！
- ・図書館の費用対効果、数字だけでなく、その他の目に見えない効果が絶大！！皆感謝しています、図書館に。
- ・役立つって数値化すること？心の豊かって数？
- ・利用者数・貸出数が評価の視点なら、それが何になるのかまで示せるといいね。

## 生活と図書館

- ・生活の役に立つ・支えになる、徐々に市民と共に図書館も成長していくといいなあ。
- ・生活に役立つ、うるおいのある（を感じることができます）図書館が欲しいと思いました。

- ・新しい出会いと新しい知識が深まる“場”でありますよう。心のかてになるような。
- ・生活に役立つ、市民に役立つ図書館がやはり必要です、牧之原市にとって。
- ・生活の役に立つ図書館を目指して欲しい。
- ・図書館は文化の発信と豊かな心を育む、市民のコアとなる場所と確信しています。同様に学校の図書館の充実が一層必要だと考えます。
- ・牧之原市に核となる図書館が必要である。というのは多く市民が求めていると考えます。
- ・新しい箱物は必要ではないと思いますが、今ある施設の有効活用を願います。

### **図書館を主体とした複合施設**

- ・複合施設として喫茶店等食事が出来る場所、考えただけで楽しい。
- ・カフェなどと複合化するとより楽しい施設になると思いました。
- ・複合施設。人を集めます。
- ・複合施設的図書館ならば図書館に行く、行きたくなります(カフェコーナーほしい。)

### **居場所としての図書館**

- ・市民の生活に密着した、親しみのある図書館。
- ・休日とか親子で楽しめる魅力ある図書館がほしい。
- ・行きやすい場所。
- ・図書館が素敵な出会いの場になればいいと思う。
- ・図書館が市民の心地よい居場所になれば良いと思った。
- ・家族で行って各々の時間が過ごせる、第2の家のような…。
- ・いこいの場となる図書館。
- ・子どもも大人も居心地良い図書館が良い。
- ・生活の一部に図書館があるっていいのでは?

### **子どもと図書館**

- ・「将来のお客さんである子ども達」の興味を育てる図書館という言葉が心に残りました。
- ・学校図書館の充実をさらに。
- ・夏休み子ども達の健全なたまり場作り。
- ・小・中・高と垣根を超えた施設。
- ・子どもが集まる施設。
- ・子どもも楽しめるような施設の工夫が必要だと感じました。
- ・子ども中心図書館。
- ・子どもたちが大切なことを改めて感じました。

### **あなたにとって図書館とは**

- ・地域に密着した図書館。

- ・お話を聞いて、これから図書館でやってみたいことが増えました。文化センターの中に図書館だけでなく色々な施設・お店が入ったら素敵だなと思いました。
- ・カウンターの役割について初めて知ることができました。強みとは!
- ・なにかがみつかる。本や資料。また行きたいなる図書館。
- ・吉住先生の“大きな箱”ではなく…。でもいい図書館で教えていただいたのは…。
- ・新しい図書館のあり方をはじめて知りました。ありがとうございました。
- ・図書館のイメージが広がりました。がんばりましょう!!
- ・なるべく多くの市民に利用される図書館ができますように。
- ・大人も子どももゆったり楽しめる空間があるといいですね。
- ・図書館を作る力は市民から。みんなの声を大きくして市政に届けよう!!
- ・人や情報が集まる場所。
- ・本の大きさを改めて考えさせられた。
- ・人が集いやすい図書館になってほしい(活動できる場所)。
- ・図書館の可能性が大。
- ・各地域の人が気軽に立ちよれる図書館を!身近に欲しいです。
- ・楽しみながら行ける図書館。皆で食事をしながら、悩み事等聞いてくれる場所。
- ・図書館はやっぱり大事。
- ・本当に勉強になりました。もっともっと教えてください。
- ・図書館は本を借りる所という認識しかなかったので、図書館の役割の多さにビックリしました。
- ・図書館を作る!
- ・気軽に足を運べる図書館の実現へ。
- ・知識だけじゃなくて知恵も見つけられる場所=図書館。



「図書館 希望の樹」1回目の感想が葉に、2回目の感想が幹に貼られた

**図書館をめぐる勉強会 in 牧之原  
報告集**

発 行:まきのはらし図書館友の会  
電 話:090-8964-6614(水嶋)  
メール:maki.toshitomo@gmail.com

発行日:2016年(H.28年)8月16日

協力:静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター・  
牧之原みらい交流サテライト  
牧之原市教育文化部社会教育課

\*この報告集がご入用の方は、発行者にご連絡ください。

